

一般社団法人日本呼吸療法医学会
2018 年度（第 41 期）第 1 回理事会 議事録

日 時：2018 年 11 月 15 日（木）13：30～16：30

場 所：東京八重洲ホール 4 階 412 会議室

出席者：藤野裕士（理事長）、尾崎孝平、落合亮一、竹田晋浩、西田 修、大塚将秀、
陳 和夫、茂呂悦子、山本信章（各理事）、橋本 悟（監事）

欠席者：今中秀光、布宮 伸、志馬伸朗、神津 玲（各理事）、川前金幸（監事）〔敬称略〕

陪 席：山崎由華、小笠原聡（事務局）

【開 会】（藤野代表理事）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席があることが報告され、開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会・総会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前回議事録は、原案通り承認された。

2. 持ち回り理事会決定事項の承認（藤野理事長）

- ・審議 2 件、連絡 5 件の決定事項をすべて承認した。

3. 事務局からの報告（大塚事務局担当理事）

- ・会員動向について、例年は学術集会後に会員数が増加し、年度末に減少するが、この 1 年はその年度末の減少傾向が緩やかになった感がある。職種別では、看護師・臨床工学技士の会員数の年度内減少は変わらないが、医師会員数の減少がわずかったことが特徴で、医師会員は継続して会員であり続ける傾向が見られるようになったことが報告された。

4. 学術集会報告・準備状況

1) 第 40 回学術集会報告（竹田前会長）

- ・参加者が約 2,150 名（うち有料入場者数 1,950 名程度）となり、1,300 万円程度の黒字見込みとなることが報告された。参加者数が目標の 1,500 名を大幅に上回ったこと、施設使用料に見合うように教育セミナーの共催金額を上げたこと、医師会などの寄付金があったことなどが増収の理由として挙げられた。一方、会場が都心のホテルだったため、施設使用料や付帯するサービスに対する料金が高く設定されており、支出も予算より増加したことが報告された。

2) 第 41 回学術集会準備状況（藤野会長）

- ・2019 年 8 月 3 日（土）～4 日（日）に大阪国際会議場で開催する。
- ・現在、招待講演の演者を選定中であることが報告された。企業の教育セミナーでは演者を引き受けてもらえないケースが増え、企業からの共催申込状況も年々厳しく

なっている。

- ・参加費は次回の理事会で提案・審議する。懇親会会場は入場者数に制限があり、会員限定とする、参加費を有料にするなどの案を検討中である。宿泊手配は行わない予定であったが、実施の是非を再度検討する。
- ・ヒト対象の研究に関する倫理指針について、演題募集要項で倫理審査承認を受けたことについて明記することを求める周知文を掲載し、『倫理審査を受けた』というチェックボックスを設ける予定。『症例報告』では、口頭または書面で本人または家族の了承を得たことについて確認することも検討する。今回はこれらを演題採否の条件にしない方針だが、次回以降は、正式な演題採用条件とする方向で検討を行うことを確認した。

3) 第 42 回学術集会準備状況

- ・2020 年 6 月 27 日（土）・28 日（日）に国立京都国際会館で開催する。前日の 26 日（金）に、ザ ソウドウ東山京都【THE SODOH HIGASHIYAMA KYOTO】で理事会・社員総会を開催する。

4) 第 43 回学術集会準備状況（大塚副会長）

- ・2021 年 7 月 3 日（土）・4 日（日）にパシフィコ横浜で開催する。前日の 2 日（金）に同会場で理事会・定時社員総会を開催する。

5. 各委員会報告

1) ECMO プロジェクトでの新教科書作成について（竹田担当理事）

- ・RedBook をたたき台とする ECMO/PCPS 教科書の制作について、日本呼吸療法医学会と日本経皮的心肺補助（PCPS）研究会を編者とし、メディカ出版から発行することが報告された。
- ・価格、印刷部数などは引き続き検討し、2020 年 2～3 月に開催される PCPS 研究会・日本集中治療医学会学術集会に合わせた発行を目指す。
- ・目次はⅠ．総論、Ⅱ．循環、Ⅲ．呼吸とし、各 10～15 項目を予定。
- ・執筆者の選定を藤野理事長、吉岡大輔先生（日本経皮的心肺補助研究会／阪大心臓血管外科学）、竹田理事が担当する。必ずしも呼吸療法医学会/PCPS 研究会会員でなくてもよいものとする。
- ・原稿料は基本的には無料とするが、謝金や献本などを検討している。
- ・広告は、協賛企業 10 社程度による商品紹介を掲載する方針で検討する。
- ・印税は 2 学会で配分する。割合は今後検討する。

2) 『改訂 人工呼吸ハンドブック 2019』について（藤野理事長）

- ・タイトルが上記のとおり決定した。呼吸療法医学会編、丸川征四郎編集顧問とし、医学図書出版から発行する。
- ・WEB 掲載用の PDF 版を発行し、本会会員専用ページへの掲載を行う。ダウンロード・印刷は可とするが、テキストコピーは不可とすることを医学図書出版に提案する。制作費は本会で負担する。
- ・臨床工学技士を主たる対象とした資料集とし、数年毎（例えば 5 年）の改訂も今後

検討する。

- ・ 来年 8 月に開催される本会第 41 回学術集会に合わせた発行を目指す。
- ・ 総論の執筆は会員の医師に依頼し、各論は各人工呼吸器製造販売業者に依頼する。
項目の最後にユーザーコメント欄を設け、各社が推薦する先生方に 500～1,000 字程度で依頼する。
- ・ 執筆依頼は事務局が行い、原稿の受取と PDF 版の制作は、医学図書出版が行う。

3) 『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』販売報告（尾崎担当理事）

- ・ 2018 年 10 月をもって 3,462 冊の売上を計上し、完売したことが報告された。
(収入：12,662,845 円／支出：5,998,159 円 収支：＋6,664,686 円)
- ・ 2021 年に第 2 版の発行を目指し、引き続き委員会で準備を進める。
- ・ 販売開始以降、委員の自社倉庫を在庫保管場所として借りたため、月 3～5 万円の範囲で 1 年分の借用料を支払う方向で調整する。

4) 医師向けセミナー第 9 回 Basic、第 4 回 Advanced 報告（大塚担当理事）

- ・ 2018 年 9 月 2 日（日）・9 日（日）にそれぞれ大阪・京都で開催され、140 名・90 名程度の参加者であったことが報告された。
- ・ アンケートに、一方的な座学だけでなくグループワークなどを取り入れた双方向的な内容を提案する意見もあったが、基本的には座学のスタイルで継続し内容を工夫していく。
- ・ 受講者数が減少傾向で赤字のため、次年度は Advanced を 1 回のみの実施とする。

5) 呼吸療法専門医・研修施設（新規・更新）審査報告（藤野担当理事）

- ・ 前年度は、研修施設は 68 施設、呼吸療法専門医は 147 名であったことが報告された。
- ・ 本年度は研修施設として新規 9 施設が認定され計 77 施設となった。呼吸療法専門医は新規申請者 18 名が全て書類審査を合格し、11 月 10 日（土）に筆記試験を受験予定である。
- ・ 暫定施設・専門医については 13 施設・13 名からの申請があり、引き続き申請があったものについてはその都度確認・認定を行っていく。
- ・ 第 40 回本会年次学術集会（8/4～5、東京ドームホテル）において、2 つの教育講演が専門医更新講習として設置され、2022 年に更新時期を迎える呼吸療法専門医を対象に講演会場入口で更新点数の付与を行ったことが報告された。

6. その他、次回理事会について（藤野理事長）

- ・ 2019 年 2 月 14 日（木）に東京八重洲ホール会議室にて開催予定。

II. 審議事項

1. 役員・委員会名簿の更新、新委員長推薦について（藤野理事長）

1) 学術集会あり方委員会

- ・ 西田理事の委員長就任が確認された。委員の選出を西田委員長に一任した。

2) 学術研究推進委員会

- ・ 委員長に志馬理事が推薦され、承認された。

- ・まず、準備委員会としてデータベースや統計の専門家として国立医歯薬基盤研究所の今井由美子先生、大阪市立大学医学部医療統計学の新谷 歩先生を委員として迎え、今後の方針を検討することが確認された。
- 3) 学術委員会の廃止
 - ・上記 2 委員会の新設に伴い、既存の学術委員会は廃止することを決定した。
- 4) 遠隔医療研究会
 - ・2018 年 2 月に顔合わせを行い、8 月の第 40 回学術集会では「特別企画」で 7 名の演者による発表を行った。今後の方針については発起人の川前監事や参画メンバーの意向を確認し、若手の人材登用もあわせて検討することとなった。
- 5) 人工呼吸編集委員会・専門医委員会
 - ・内山編集委員長は 2019 年度から専門医委員長への就任が内定している。編集委員長との兼務は適切でないため、委員会から竹内宗之編集副委員長を次期編集委員長とする推薦があり、承認された。
- 6) その他、持ち回り理事会 No.41-1 で決定した以下の新委員長・担当理事を確認した

・将来計画委員会	新委員長	藤野裕士	
・人工呼吸編集委員会	新担当理事	今中秀光	
・小児在宅人工呼吸検討委員会	新担当理事	尾崎孝平	
・チーム医療推進委員会	新委員長	横山俊樹	
	新担当理事	尾崎孝平	／新副理事 茂呂悦子
・人工呼吸管理安全対策委員会	新委員長	中根正樹	
・危機管理委員会	新担当理事	布宮 伸	
・社会保険委員会	新委員長	落合亮一	(※担当理事兼任)
・財務委員会	新委員長	落合亮一	(※担当理事兼任) (敬称略)

2. 各委員会からの審議事項

1) 倫理委員会について (大塚委員)

- ・新委員就任と内規改訂について以下の発議があり、いずれも承認された。

→新委員：坪井 知正 Dr 国立病院機構南京都病院呼吸器内科

清水 孝宏 Ns 那覇市立病院看護部

→内 規：第 2 条 組織『委員長 1 名、委員 5～7 名で構成する』。

2) 『人工呼吸』論文賞副賞の金額について (藤野前担当理事)

- ・賞選考規程細則第3条ならびに第4条にある副賞について、優秀論文賞を金5万円から10万円へ、奨励論文賞を金2万円から5万円へ改訂することが承認された。
- ・賞選考規程・細則については、学会HPで開示することを決定した。

3) 講演料・謝金などの金額について (落合委員長)

- ・各種講演料・謝金の設定額を再考した。ECMO シミュレーションラボに係るインストラクターの旅費・日当・宿泊費については、当初は委員会主催によりコースディレクターの裁量で各位の費用を決定していたが、今後は学会の旅費規程に則り (旅費は新幹線指定料金または飛行機代実費、日当は 1 日 5,000 円、宿泊費は必要に依

じ 1 泊 15,000 円) 支給することとした。

- ・今までは、座学の講師には日当を増額することで対応してきたが、今後は学会規定の日当+別途「講演料」として支払うこととした。ただし、インストラクター全員が協力して実施している ECMO シミュレーションラボ運営の実態および収支状況を考慮し、全インストラクターの日当・講演料の総額は 60 万円以内とし、その内訳はコースディレクターに一任することとした。

4) 人工呼吸管理安全対策委員会審議報告 (山本副担当理事)

- ・人工呼吸器の作動停止事例の情報収集に関して、人工呼吸療法全般のトラブルを扱うかどうかについて委員会で審議したが、他の事例収集事業が存在していることから、当委員会では人工呼吸器の作動停止に限るべきとの審議結果が報告された。また、収集したデータの活用について、会員や社会への情報還元の方法について今後の課題とすることが報告された。
- ・医療安全全国共同行動総会への参加・報告については、都内開催時は在京委員を中心に参加の可否を調整することとした。
- ・高流量酸素療法に関するガイドラインについては、2016 年に本委員会が『人工呼吸』ならびに HP にて開示した『【勧告】NPPV・HFNC 関連』に倣い、高流量酸素療法における提言、注意喚起レベルのマニュアルを制作し、学会 HP に掲載することが決定した。『ガイドライン』ではなく、注意喚起マニュアルとして制作していく。

5) 排痰補助装置 (MIE)・高流量療法実態調査案の件 (落合委員長)

- ・既に参加申請を行った内保連については、12 月の加入認定後に本会から入院患者における MIE の保険点数新規算定と高流量療法の保険点数増点の第一次提案書を提出する。
- ・これに関連し、本会代議員の所属施設を対象として MIE と高流量療法 (ハイフローセラピー) に関する使用状況調査を実施することが承認された。

3. その他

1) 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ設置について (尾崎理事)

- ・2007 年 9 月に初版、2013 年 3 月に改訂版を発行した「気管吸引のガイドライン」について、第 3 版の 2021 年発行を目指しワーキンググループを設置する提案があり、承認された。在宅における気管吸引についても盛り込む予定である。
- ・委員長は中根正樹代議員とし、コアメンバーに森永俊彦代議員、鶴澤吉宏代議員、松本幸枝代議員を加え、尾崎理事が担当理事に就任する。また外部委員として患者家族を加えていく方針が示された。

2) 消費税への対策について (大塚事務局担当理事)

- ・2019 年 10 月からの増税に際し、現在設けている各種料金と表記について審議を行い、以下の下線のとおり改正することが決定した。

→『人工呼吸』雑誌販売 2,500 円/冊 (本体価格+送料込、税別)

※年間購読契約料は 5,000 円/2 冊・税込価格のまま据え置きとする。

→『人工呼吸』広告料 (各掲載場所、会員/非会員料金いずれも税別)

→ユーザーレポート掲載料 70,000 円 (見開 2 頁、1 頁は 35,000 円、税別)

→医師向けセミナー参加費 15,000 円（昼食、テキスト代、税別）

→医学会セミナー 参加費 11,000 円（昼食、資料代、税別）

→ECMO シミュレーションラボ

参加費 40,000 円（1 施設 4 万円×3 名＝12 万円、税別）

3）二次使用許諾申請の内規改訂について（大塚事務局担当理事）

- ・前年に二次使用許諾料（324,000 円）の納入があった論文に対して、再度別刷を希望する申請が同一企業から届いた。同一論文の反復使用については取り決めがなく審議を行ったところ、以下の対応を行うことで承認された。
- ・営利目的で、同一論文を反復して二次使用希望の申請があった場合、
 - 総部数が 1 万部を越えない場合は印刷実費＋1 万円の事務手数料を請求する
 - 総部数が 1 万部を超えた時点で、許諾料の差額 20 万円＋税を請求する
 - この場合、1 万円の事務手数料は許諾料の差額に含まず、別途徴収する
- ・参考までに許諾料を明記する（内部資料、理事会で決定、HP には未掲載）。

『人工呼吸』 誌、掲載内容	学術目的			¥0-（無料）
	営利目的	作成部数	（10,000 部未満）	¥300,000- ＋税
			（10,000 部以上）	¥500,000- ＋税
		WEB 掲載		¥500,000- ＋税
ガイドライ ンなど	学術目的	別刷		¥0-（無料）
	営利目的	別刷		上記許諾料

ただし、学術目的・営利目的いずれの場合も上記許諾料に印刷実費を合わせて請求する。

4）ARDS 診療ガイドライン準備委員会始動について（橋本委員長）

- ・『ARDS 診療ガイドライン』については 4、5 年ごとの改訂が見込まれており、これまでと同様に日本呼吸器学会と日本集中治療医学会との 3 学会合同で 2021 年頃の発行を目指し、讃井将満委員長、田坂定智副委員長のもと、準備委員会が始動したことが報告された。